

3. 平成 26 年度 学校評価

学校目標	校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	達成状況		
一人ひとりの教育ニーズに応える教育活動を行う	<p>・支援計画や個別教育計画の作成を通して本人や保護者等と中心的な課題(教育ニーズ)を確認・共有する。</p> <p>一人ひとりの教育活動のねらいと評価が個別教育計画の作成において明確に記載され、指導につながるような支援を行う。(企)</p> <p>児童生徒本人・保護者・学校が共通認識を持ち、個別教育計画の作成に努める。(A)</p> <p>保護者や病棟関係者との情報交換などを大切に、一人ひとりのニーズに応える個別教育計画を立てるよう、努める。(B)</p> <p>一人ひとりの学習や観察を通して中心的な課題(ニーズ)を明確にし、児童生徒を取り巻く関係者と、児童生徒や保護者の思いや課題を共有し、教育活動を計画する。(C)</p> <p>児童生徒の実態や課題を関係者と確認し、個別支援教育計画の作成を通して目標を共有する。(D)</p> <p>生徒、保護者、学校で、中心的な課題について共通理解し、個別教育計画の作成に努める。(E)</p>	<p>「自立活動」「能力開発」「キャリア教育」の3つの側面を意識し、目標がどの観点にあてはまるか表記した。評価においてもその観点に沿って評価するよう支援を行った。</p> <p>本人・保護者と面談をして個別教育計画を作成し、部門会で検討し共通理解をした。長期目標を「自立活動」「能力開発」「キャリア教育」の3つの側面に分けてたてた。授業研究の指導案には、「自立活動」と「キャリア教育」の側面について明記し、2つの側面をおさえて授業を組み立てた。</p> <p>病棟関係者からの情報が見えにくい。各担任から、保護者への働きかけは良好で、行事への参加率も高まってきていると思われる。個別教育計画の様式変更を試みたり、管理職からの説明を受けたり努力したものの、実態にそぐわず共通理解をはかりきれなかった。</p> <p>指導検討会で児童生徒全員の教育的ニーズを明らかにできた。自立活動では、人との関わりを、能力開発では、個別指導による学習を、キャリア教育は、退院後を見据えて関係する様々な人たちと連携を保護者から評価された。</p> <p>保護者と学園職員を対象に実施した学習アンケートや聞き取りを参考に個別支援教育計画に記述し、学習内容は学習便りや面談、授業参観で伝えていった。個別支援教育計画の作成において、各児童生徒の教育目標を、「自立活動」「能力開発」「キャリア教育」の側面に沿って記述した。</p> <p>自立活動の時間に生徒のニーズの聞き取り、家庭訪問や面談で保護者の考えを聞いて個々の生徒の課題について検討した上で、課題を共有しながら個別教育計画を作成できた。3年生は、卒業後を見据えた生徒の課題を共有し作成することができた。また、前期評価を踏まえながら、個々の課題を共有し、後期に向けて再確認した。個別教育計画の記入の仕方がわかりにくかった。</p>	<p><学校評議員> 3つの視点と「一人ひとり…」を上手にかみ合わせるは大変なことと思います。これは指導者間のコミュニケーションとベテランの助言の大切さが。「心の杉」の様な児童生徒達を皆さんの努力でさらに成長させてください。 個別教育計画の作成にとどまることなく、その情報を生かす努力を重ねてほしい。</p> <p><保護者> ・個別教育計画や支援計画など、一人ひとりの教育活動の取り組みを支えてくれてありがとうございます。学習も落ち着いてできるようになりました。</p>	<p><学校評価> ・各部門とも、個別教育計画と3つの側面との融合を図り、既存の教育課程や指導内容に3つの側面のいずれかを関連づけるという形での整理を終えた。また、今年度はキャリア教育の位置づけについて各部門が検討を深め、研究授業の指導案や部門研究のまとめの中でより明確な位置づけを図った。</p> <p><課題改善方策等> ・「能力開発」については「自立活動」「キャリア教育」に関する各部門での整理が進行する中で、来年度の検討期間を有効に使う、より明確な枠組みづくりを図ると共に、そうした作業を通じてより適切なネーミングが提案されるようひろく学校全体に提案する。さらに、今後は、整理された3つの側面の枠組みをベースにした教育課程や個別教育計画の見直し等を行い、より明確な側面化を行うことで、この取組の中期目標における作業を完了させる。</p>

<p>・教育ニーズに応じた学習活動・学習環境を用意する。</p>	<p>部門を越えて児童生徒、教員が目標をもって交流できるような活動を計画・実施する。(企)</p> <p>一人ひとりの児童生徒の課題に応じたきめ細かな支援に向けて、授業改善に努める。(B)</p> <p>個別指導や集団指導の中で、中心的な課題(ニーズ)を意識しながら学習や活動の中で支援を行う。(C)</p> <p>児童生徒が意欲的に取り組める学習内容や学習グループの形態を工夫する。(D)</p> <p>学びあえる学習集団を広げるために、本校他部門との交流の場を実現する。(E)</p>	<p>体育行事合同練習、E部門修学旅行発表会、部活動や作業体験、高等部卒業式合同練習での交流を行った。本校から離れた部門では交流を通して本校への所属意識をもつことができた。</p> <p>・部門を越えた授業支援などによる教員の交流もでき始めた。</p> <p>部門研究として取り組み、児童生徒の主体的な動きを引き出す授業を展開することができた。</p> <p>言葉かけやふれあいを大切にして、児童生徒のわずかな表出を見逃さないよう努力をしている。</p> <p>A部門の児童とスマイルデーの合同練習をした。E部門の修学旅行発表会や帰りの会に参加したり、合同で卒業式の練習を行ったりした。</p> <p>23/26名の保護者が満足(A)と評価している。授業の評価ができないケースでは、電話で随時、学校での様子を知らせたり、学習の成果を保護者に示したりして、情報共有に努めた。</p> <p>学園の日課クラスの状況に合わせて授業時間を確保し、授業の内容や形態を工夫して行った。</p> <p>週1回複数クラスで行う運動や、毎日のグループ学習の幅を広げた集団での活動により、児童生徒の経験の幅を広げることができた。</p> <p>職業自立の時間にD部門のスクーリングという形で交流した。ダンス部は、年3回の交流ができた。</p> <p>3年生は、修学旅行の振り返りでAB部門との交流ができた。また、B部門3年生とは、帰りの会での交流を継続した。他の行事などでも自然に交流することができた。</p>	<p><学校評議員> 教員、保護者、本人との話し合いで不得手とするところを取り組むことで成果が現れたと思う。職員の連携がよく取れている。</p> <p><保護者> 医療機関その他の相談機関との話より秦野養護学校の先生方とお話できることが、とても有意義で適切なアドバイスをいただけて大変助かっています。今後とも親子共々大事な話をたくさんさせていただけますよう希望します。</p> <p>個人のためにいろいろと考えてくださりありがとうございます。個別の授業を突然見学させてもらいました。きめ細かく、本人を見ていただき、楽しそうにしている姿や先生を信頼している姿は本当にうれしかったです。</p> <p>個別の時間でi-padの教材の導入を希望します。(家では意識づけが困難なため)</p> <p>部門に関係なく先生方が児童に声をかけて下さるなど、皆で児童を見守っている印象を受けています。</p>	<p><学校評価> ・5つ部門がそれぞれの教育ニーズを絞り込み、指導時間や指導態勢、指導環境などを工夫した授業作りを図った。また、様々な形で部門間の児童生徒交流を積極的に行うことで児童生徒の自主的かつ主体的な交流へと発展した。</p> <p><課題改善方策等> ・「自立活動」や「能力開発」といった障害の程度や能力の較差による観点だけでなく、年齢に応じた「こころの育ち」を視点とした教育課程の構成や個別教育計画の組み立て方も念頭に置いて児童生徒個々の教育活動を考えていくよう学校長より全体に提言した。</p>
<p>一人ひとりの保護者や本人との「話し合い」を教育活動のベースにする。</p> <p>児童生徒自身が達成感、充実感、自信、自尊心の高まりなどを感じられる支援を行う。</p> <p>児童生徒の主体的な取り組みを支える</p>	<p>一人ひとりの児童生徒の現状を保護者や関係者と共有し、見通しをもった支援や情報提供を行う。(D)</p> <p>生徒による授業評価の方法を該当部門と企画指導グループ教務係にて検討し、適宜実施する。〔企〕</p> <p>児童生徒の個別のねらいをふまえた授業を工夫する。(A)</p> <p>授業評価を行い、授業改善に努める。(E)</p>	<p>ケース会議や面談を通して、児童生徒の現状を共有し、見通しをもった支援につなげることができた。</p> <p>部門便りでの告知や結果の報告により学校評価アンケートに対する保護者の意識を高め、郵送だけではなく面談や学園行事を使って回収するようにした。その結果、回収率は20%近く上昇した。</p> <p>A E部門で生徒による授業評価を行った。生徒自身が授業への取組を振り返り、担任も学習状況の把握や年間の学習の流れが見え、授業ごとに必要な支援についても気づくことができた。</p> <p>全員が授業研究を行った。特に初任研と1年次研においては指導案検討と研究協議をして、各教科での個別のねらいをふまえた授業の工夫を共有することができた。</p> <p>生徒による授業評価を行い、評価の理由等を共有し、各授業の中で生かすようにした。</p> <p>単元の最後に振り返りの時間を設け、学習の定着を把握することができた。また、行事や授業等、生徒を交えながら企画を進め、意欲的に取り組めた。</p> <p>・学期末の授業評価を行い、授業について振り返ると共に、生徒の実態に合ったわかりやすい授業について検討をして指導にいかす事ができた。</p>	<p><学校評議員> 本人が自信を持ち達成感が得られるような指導をしていただいている。</p> <p>保護者と担当教員との相互信頼がベースである。信念を持って前進してください。人は変わるものと信じています。</p> <p>児童生徒に評価させる取組は素晴らしい。主体性を生かす活動をいかに保護者に周知、情報を伝達できるかが今後の課題であろう。</p> <p>生徒自身が真剣に評価へ取り組む姿勢が窺える。</p> <p><保護者> 何を手伝っていただけるのか一緒に考えていけたらと思ってます。秦養でできる楽しい事柄を考えたいです。</p>	<p><学校成果> ・学校評価アンケートの回収率は最終的には80%を越え、一定の課題解決をみた。次年度も今年度同様の取組を継続する。</p> <p>また、授業評価は2年目を迎え、評価作業がより円滑に行えるようになると共に、数値や回答内容の読み取りと評価の仕方についてのスキルが向上したことで、より適切な授業改善やサポート体制の焦点化につながった。</p> <p><課題改善方策等> ・授業評価の蓄積から抽出される部門の各学習の特性を「強み」と「課題」という二分法に則って再整理し、生徒の実態を総体的に捉えた標準的な授業作りに生かすと共に、生徒個々の特性をより個別的に捉える手立てとして活用することで指導の「全体」と支援の「部分」とを一体化させた総合的な指導体制づくりにつなげていく。</p>

<p>次のステップへの道筋を拓き、自己選択・自己決定を支える</p>	<p>・児童生徒自身による自己選択・決定の場面を設定していく。</p> <p>それぞれの児童生徒に対し、自ら進路を選択できる力を育成する。〔支〕</p> <p>転出や卒業後に向けて、地域の中で生活しやすいような環境を整える。〔支〕</p> <p>児童生徒が自分の課題と向き合い、次のステップに向かえる力がつくよう支援する。 (A)</p> <p>児童生徒が個々に合った方法で、自分の気持ちを表現できるように支援する。(B)</p> <p>自分の障害と向き合い、よりよい学校生活が送れるように支援する。(C)</p> <p>生徒一人一人が自分の目標(めあて)、課題を意識しながら自分の働く力を高められるような実習を行う。(E)</p>	<p>A部門では、高校説明会や進路講話会などを通して生徒の状態や適性、希望に応じた進路を選択することができた。</p> <p>E部門では「働く生活」に対する学習を推し進めるとともに、卒業後の進路について自分で考える機会を持たせるようにした。3年生は全員が希望の進路先を決定できた。保護者には進路に関する説明会などを開催し、卒業後の進路に対する啓発に努めた。</p> <p>福祉制度説明会、進路説明会等を開催し「サービス等利用計画」について周知に努めた。</p> <p>家庭への支援が必要なケースに対して、本校と児童相談所、市役所、相談支援事業所、サービス提供事業所等とケース会を行い関係機関との密な連携をとることができた。</p> <p>転入による生徒増に対し、各教科とも指導態勢を工夫して授業を進め、今後の進路で集団の中に入って行くことを意識して授業を組み立てた。また、文化祭でのステージ発表をやり遂げたことで集団での学習にも自然に取り組みめるようになってきた。</p> <p>病棟内のスペースをお借りして、わくわくの授業等、集団で活動できる機会を設けた。</p> <p>「朝の会」、「個別」等の授業他、あらゆる場面で意識しながら取り組むことができた。</p> <p>病院とかもめ学級合同で情報交換会をもつだけでなく、退院後、転籍校と電話連絡をしたり、子どもが通院時に保護者から相談を受けたりして環境づくりを行った。</p> <p>職業自立の時間や実習事前学習を通して、それぞれの実習のねらい、そのために何をがんばるかを具体的に提示した。ほとんどの生徒が実習先から高い評価をいただき自信をつけて実習を終えることができた。</p> <p>主にハローワークとの連携を密にして企業開拓に励んだ。必要に応じて就業・生活支援センターや仕事サポーターといった機関とも連携し、最新の企業情報を収集できた。</p>	<p><学校評議員></p> <p>的確な指導によりスキルの向上ができたと思う。</p> <p>自分自身で処理できない問題が起きたときの対処法を導いて下さい。</p> <p>児童生徒を長い目で担当者が関わり、複数の教員の意見を聞ける方法も、客観的に試行することによって、よりよい進路指導で自己決定支援につながると思う。</p> <p>基本的な生活習慣を身につけさせる指導は進路上大きなウエイトを占める。工夫改善の努力を今後も継続してほしい。</p> <p><保護者></p> <p>詳しい症状、また、今まで気づかなかったこともしっかり見つけて説明していただき娘自身も徐々に自信がついてきたと嬉しく思っています。子どもたちにとっても私にとっても大変貴重な時間となりました。</p> <p>現場実習においては、進路担当の先生や担任の先生にご尽力いただき感謝しております。社会に出て行くのに必要なこと、多くのことを教えていただき、巣立っていくことができそうです。</p> <p>先生方には子どもを十分理解してアドバイスをしていただいているのでとても助かります。著しい成長の過程にはこうした指導があるからこそだと感謝しています。</p>	<p><学校評価></p> <p>・児童生徒の卒業後の進路決定という狭義のキャリア教育については、C部門やD部門における転学復学支援も含め、円滑な支援が達成できた。</p> <p><課題解決の方策等></p> <p>・秦野本校への転入学については新たなニーズを反映したケースが増加した。本校を巡る転入学のあり方について、そのシステムの整理と同時に受け入れ体制や病弱教育の理念などについての再確認をし、より円滑な移行支援につながるよう環境整備をしておく。</p> <p>・A部門での高等学校進学やE部門の学習・進路指導に関する情報やスキルは今後の高等学校におけるインクルーシブ教育にとって貴重な知財であることから、その課題や実態などを整理蓄積して、情報提供したり協議したりする機会を来年度以降の公開研修会などの中に設定するなど、広く地域に還元していく。</p>
<p>・保護者や関係機関と協力した移行支援を推進する。</p>	<p>本校高等部へのスクーリングや校外学習を通して、自分の今後の進路をイメージできるような指導を行う。(D)</p> <p>新たな障害者福祉制度について理解を深め、より安心して卒業後の生活を送るために方策を模索する。(E)</p>	<p>児童生徒の実態に合わせ、E部門ダンス部との交流や、作業学習へ参加という形でのスクーリングを実施し、高等部の雰囲気を感じる事ができた。校外学習では消防署やスーパー等の見学を通して仕事に触れることができた。また、公共の場を利用することにより外での振る舞いかた等、様々なことを学ぶことができた。</p> <p>進路説明会や実習事前説明会で新しい福祉制度について説明をした。</p> <p>サービス等利用計画については3年生の保護者に何回も説明するとともに、企業就労予定の生徒でも将来困ることがないように、基幹相談支援事業所への登録の流れやスムーズな登録ができるように保護者に記入してもらったフェイスシートを新たに作成し活用した。</p>		

<p>地域での学びと暮らしを支える役割を担う</p> <p>・特別支援学校としての専門的なノウハウを共有・蓄積し、広く提供する。</p> <p>・地域の生活・医療・仕事・教育等に関する相談支援体制に寄与する。</p>	<p>「学校だより」を保護者、関係諸機関、地域の学校等に広く配布し、学校の様子や取組を伝える。(企)</p> <p>教育相談、巡回相談、グループ相談、各種の研修会などを通して、秦野市の支援教育にかかわる連携を強化・深化する。〔支〕</p> <p>「小児の高次脳機能障害・支援ガイドブック(チェックリスト付)」が広く活用できるようにする。(C)</p> <p>秦野市在住の幼・小・中・高の病弱児に対しての支援を行う。(支)</p>	<p>「学校だより」を毎月1回発行し、各部門の活動を伝えた。</p> <p>2月には、保護者アンケートの結果や評議員の方々の提言や助言を記事にし、伝えることができた。</p> <p>大きな行事がある月はそれを共通テーマとし、各部門の取組を伝えることができた。</p> <p>秦野市と伊勢原市のまなびの教室担当教員と協働でグループ相談を運営した。</p> <p>退院した児童生徒の保護者と復学先の担任の先生から13/22名の回答を得た。アンケート結果では高い評価を頂いた。チェックリストの質問項目についていくつかのアドバイスや指摘があった。</p> <p>・「小児の高次脳機能障害 支援ガイドブックチェックリスト付」を活用して授業を行い、結果を「ガイドブック活用表」にまとめている。それをもとにまた、次の指導に役立てることができた。</p> <p>地域の学校に転学する児童生徒に対して、教育環境の整備について相手校の担任や教育委員会と話し合い、今後の対応に活かすことができた。</p>	<p><学校評議員></p> <p>地域を支援するセンター的機能を十分に果たしている。今後も地域の学校の相談を積極的に受け入れてほしい。</p> <p>学校のノウハウが高い評価を受けているのは毎日の先生方の努力の成果だと思う。さらに発展させてほしい。また、小中の先生方を積極的に学校へ招き、広く専門分野を提供するのも地域支援を強めることになる。</p> <p>地域での実習により学校を理解してもらっている。他の小中の支援級の先生との情報交換も今まで以上にやっていく必要がある。</p> <p>学校と生徒が地域に貢献し、地域の人たちとのコミュニケーションの環を広げ、一人ひとりが成長していけるような活動を期待している。</p> <p><保護者></p> <p>手足の不自由、高次脳機能障害を持ち、以前よりも学校生活での人との関わりが上手くできなくなったり、学習でも困難があったり、自信を失っていた状態でしたが、かもめ学級での4ヶ月の中で少しずつ自信を持ち人との関わりを学び前向きになることができました。いろいろな意味で子どもにとっても、又、親にとっても必要な場でした。</p>	<p><学校評価></p> <p>・地域の幼稚園・小学校を巡回する相談業務は連携システムが確立され、関係機関や学校から高く評価されると共に、多様化するニーズにも柔軟に対応して十分な成果をあげた。また、高次脳機能障害のための「ガイドブック」は、在籍した児童生徒に係る保護者・学校に供与すると同時に、その活用に関する実態調査を行ってより充実した内容で改訂に臨めるよう新たな取組を進めている。</p> <p>・今年度試行した高等学校の初任者による学校訪問については当該校からもその意義について肯定的な回答があった。来年度以降は異校種間の他校訪問が基本研修として設定された。</p> <p><課題改善の方策等></p> <p>・本校のA部門から高等学校への進学実績やE部門での職業教育及び就労支援体制といった知財情報の提供のあり方について検討しておくと同時に、公開研修会など特別支援教育の専門性を発信するツールを再整理しておくことでインクルーシブ教育の展開に係る本校のセンター的機能の方向性を模索すると共に、ニーズの具体についても確認していくことが求められる。</p>
<p>保護者・生徒・教員が協力して、安全で安心感のある学校を作る</p>	<p>日常生活の安全に関する児童生徒指導体制の充実を図る。</p> <p>児童生徒の健康状態に関する、情報の共有化を図る。</p> <p>ホームページの管理とIT環境の充実を図る。</p> <p>校内の環境整備について、児童生徒が自ら考え実行できるようなエコ活動に取り組む。</p> <p>PTA活動を保護者に周知し、活動に積極的に関わってもらえるようにする。</p>	<p>登下校指導など、必要に応じて他部門と情報交換を行うことができた。また生徒指導などの情報を共有した。</p> <p>学警連などに出席し、関係機関と情報交換や安全指導等を行った。</p> <p>捜索訓練、不審者対策訓練、交通安全教室、携帯電話安全教室では、外部の講師を招き計画的に実施することができた。</p> <p>部門会の議事録や個別ファイルによって情報共有し、医療につないだ。</p> <p>歯磨き週間を設定し、歯磨きカレンダーの中に歯科保健指導の結果をもとに歯磨きの目標を自分で書かせ、目標を持って歯磨きに取り組ませることができた。</p> <p>ホームページのリニューアルの検討を重ねている。トップページについては原案が完成し、現在作成ソフトを用いて作業を進めている。</p> <p>依頼を受けた原稿は速やかにアップロードして常に最新の状態に更新することができた。</p> <p>今年度新たに調達したICT機器を全職員が使用できる環境を整えた。また、USBメモリの使用法やPCウィルス対策など情報管理に関する講習を行った。</p>	<p><学校評議委員></p> <p>安全安心は基本的な事案ですから、普段の努力を期待します。対応マニュアルは共通して誰もが理解しながら、担当を何年かごとに変える必要もある。</p> <p><保護者></p> <p>本年度初めてPTA活動の役員として体験させていただきました。貴重な経験でした。子どもたちの安全面、障害者同士でも難しいことや考えなければいけない部分がまだまだたくさん問題としてあると思います。これからも保護者として子どもたちが安心して学校の行事や経験等、見ていけたらいいなあと思います。</p> <p>学校としての安全・衛生面に関してはとてもよくしていただいております。病棟から学校への通学路のハード面の整備がもう少し良くなるよう進めていただけたらと考えています。</p>	<p><学校評価></p> <p>・保護者アンケートの結果から人権に係る評価については年度後半の取組と職員の対応などにより改善した。また、環境、防災の教育に関して、また学校行事の活動において児童生徒を核とした取組のスタイルが形成された。</p> <p><課題改善方策等></p> <p>・特にD部門における教育課程や指導体制の現状については、新たに設置される知的障害小中学部との連動性を基に学習指導要領との整合性をいっそう図るよう学園と協議しながら改善していく。</p>

<p>・安全で清潔で快適な学習環境を維持していく。</p>	<p>校内の環境整備について、児童生徒が自ら考え実行できるようなエコ活動に取り組む。</p> <p>PTA 活動を保護者に周知し、活動に積極的に関わってもらえるようにする。</p>	<p>ペットボトルのキャップ回収活動（エコキャップ活動）に取り組んだ。生徒による事務局を設置し、事務局長を中心とした活動に取り組んだ。回収強化週間を設け、全校朝会にて活動について周知し、児童生徒への啓発を行った。</p> <p>広報誌を年2回発行し、PTA活動の様子を伝えることができた。 夏祭りでは、ボランティアを含め、109名の方々にご参加いただき楽しんでもらうことができた。 PTA教室では、講師の先生の他、保護者6名、児童2名、教員6名、の参加を得た。</p>		
<p>・事故、災害に対する予防と緊急対応マニュアルの見直しと周知・徹底をしていく。</p> <p>・じっくりと教育活動に取り組めるゆとり感のある校務活動に取り組んでいく。</p>	<p>災害に備えた体制を更に整えるとともに、児童生徒へ向けた防災教育の充実を図る。</p> <p>ハラスメント（いじめ、虐待、体罰等も含む）防止への啓発と相談担当者の活用に取り組む。</p> <p>更なる業務改善を進めて、教育活動の充実を図るとともに、OJT効果につながる校務体制を整備する</p>	<p>訓練で防災指導を行い、児童生徒に対する防災への関心を高めることに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞や防災に関する授業など、多様な形で防災学習を進めた。 ・防災倉庫の見学や防災用品の紹介、発電機の実演などを行った。 ・防災用品の整理、および点検を行うことができた。 <p>児童生徒を対象とした「ともだちアンケート」を実施した。</p> <p>アンケートを実施し、改善項目と課題項目とを整理し解決策の提案を行った。</p>	<p><学校評議員></p> <p>トラブルを起こしたときには迅速な対応をしていただいているところがよい。</p> <p>日々の生活の中で豊かな心が育まれれば、明るく秩序ある学校が維持されると思う。</p>	<p><学校評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の防災学習が定例化し、生徒の防災意識が自覚的に高まるような取り組みになった。 ・いじめアンケートの結果を職員に開示し、問題点の周知を図ることで日々の指導や支援に生かすことが出来た。 ・業務改善アンケートからは全般的な改善傾向が窺えた。なお改善を要する項目については各部門の認識を図り、改善に向かうための具体策や助言を行った。 <p><課題改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災や人権に関わる教育については、来年度も児童生徒自らが発信者であり受信者であるような活動のあり方を継続発展させることで、防災教育や人権教育としての実効性を高めるだけでなく、児童生徒の自立と参加に向けた心理の育成にもつながるという観点に立って指導していく。